

REFINITIV. リフィニティブ



高校生向け
資産
形成
がわかる



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

Refinitiv(リフィニティブ)はロンドン証券取引所グループ(LSEG)傘下の金融情報提供会社です

知りたい

投信 なるほど
リップバー

夏休み集中講義①～どうして資産運用？

お金の知恵を磨いて夢の助けに

高校生のみなさん、夏休みをいかがお過ごしですか？勉強や部活動がんばっている人、夏休みだからやれることに挑戦している人、友達との時間を過ごす人、ゆっくりする人など、有意義な日々を送っていると思います。

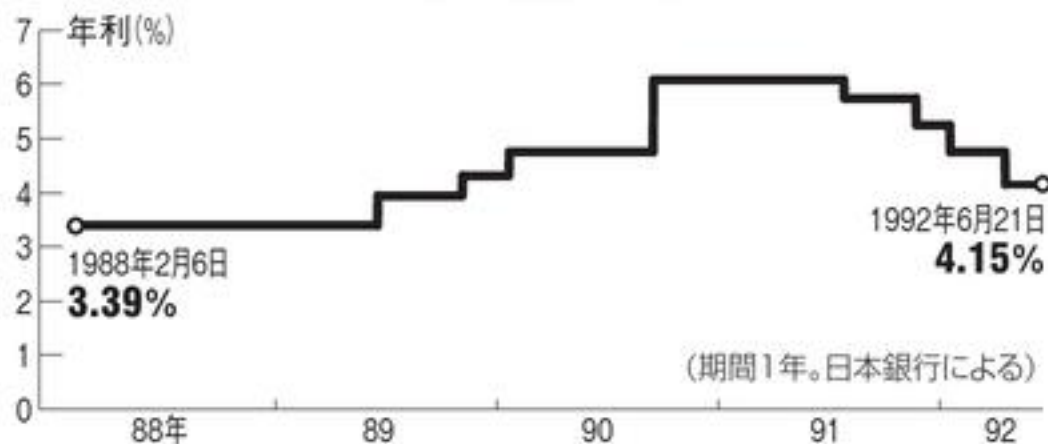
2022年の春から、高校の家庭科や公民科(公共)の授業で、お金に関する知識「金融リテラシー」を学ぶようになります。家計の管理や将来の生活設計などは、お金もうけというよりも、暮らしの知識。私は、家事の一つだと思っています。家計のやりくりがうまくできれば、生活に必要なお金を確保できます。やりたいことの資金を計画的に準備できれば、実現しやすくなります。金融リテラシーは、みなさんの夢をかなえる道具でもあるのです。

ところで、なぜ、学校で金融リテラシーを学ぶことになったのでしょうか。みなさんの先生や保護者が高校生だった時代には、お金のことを学ぶ機会はありませんでした。社会に出て、まじめに働き、一般的な生活を送っていれば、老後に必要な資金は蓄えられたからです。

民間企業で働く人の年金制度が始まったのは1954(昭和29)年。当時の平均寿命は、男性が63.41歳、女性が67.69歳で、退職後の生活資金は、数年分を準備すれば済んだのです。特別な資産形成の知識がなくても暮らせました。

また、今とはケタ違いに金利が高かったのです。グラフは、1988年2月から92年6月までの1年定期預金の金利です。最も高かった頃は、預貯金に10年預ければ、利息が元

景気がよかったころの銀行定期預金金利の推移



本と同じぐらいでした。預けた金額の2倍のお金が返ってきたのです。当時は、どの銀行に預けても同じ金利でした。現在は銀行ごとに金利を自由に決められますが、1年定期預金の金利は、わずか年0.01%~0.02%です。

90年ごろに金利が高かった理由は、日本の景気が良く、産業にお金が必要だったことや、資産価値がどんどん上がるバブル景気だったからです。高い金利を払ってでもお金を借りて事業を大きくしたい、借りたお金で投資をしたい、と考える企業や人々が多かったのです。お金が必要とされていたので、預貯金の金

利も高かったのです。

景気が良かった時期は、働くほどに人々は豊かになり、新製品を手に入れ、売れるから新たな商品が世に出される、すると企業の利益が増える、という循環ができていました。定年まで働き、無駄遣いせず貯金をしていけば、特別な資産形成の知識がなくても暮らせたのです。



この欄では、毎月第1金曜日の朝刊で、高校生や保護者のみなさん、そして現場の先生に向けた金融の話をお届けしています。8月は夏休み特別企画として、毎週、高校生向けの内容でお届けします。